

古川全国知事会政権公約評価特別委員会委員長（佐賀県知事）の
民主党代表選挙立候補者への公開質問状に対する回答について

【日 時】 平成 22 年 9 月 9 日（木） 11：00～
【場 所】 佐賀県庁内
【出席者】 古川全国知事会政権公約評価特別委員会委員長（佐賀県知事）

（記者）

今日公開質問状の回答が届いたということで、菅さんと小沢さんのご回答を見て、感想といますか、印象はいかがでしょう。

（古川全国知事会政権公約評価特別委員会委員長）

両候補とも今回のやりとりを通じて、地方分権、地域主権改革については非常に見識を深められたとっております。回答そのものについては、満足した水準になっていると思います。

（記者）

地域主権関連 3 法案の回答の部がけっこうさらっとした印象があったのですが、その辺はいかがでしょう。

（古川委員長）

こうしたあげなければいけない法案があるということについて、先般私が知事会を代表して小沢候補にお目にかかったときには、そうだね、やらなきゃいけないね、という感じではなかったんですね。それが今回の回答を見ますと、こうした問題があるということについてしっかりご認識をいただいておりますので、いずれにしろ私達が目指していたことは、こうしたやりとりを通じて両候補にこの地方分権・地域主権改革というものについて認識を深めていただくということが何よりの目的でしたので、その目的は十分果たすことができていると考えています。

（記者）

今回の回答に採点はされないということだったんですけど、満足はできる内容ではあったんですか。逆にこの辺をもっとしてほしいと、その辺はありますか。

（古川委員長）

まず、今回のこの目的は、両候補にこの改革についての認識を深めていただくこと、そしてこのやりとりを通じて国民の皆さんにもこうした問題が重要な問題だということを知っていただくということを目的にしていたので、その点から言えば、十分にその目的を果たすことができたと考えています。この回答そのものについても、もっと細かく、具体的にと言えきりはありませんが、こうした問題についてしっかり取り組んでいただくといくことを、両候補から、候補者それぞれが直接その言葉を発せられたということでもありますので、内容的にも私としては満足しています。

（記者）

一括交付金の問題で、よく元岩手県知事の増田さんが無理じゃないかと、財源の問題で一括交付金にしたら地方が減るとか。古川知事ご自身としては、一括交付金についてどのようにお考

えですか。

(古川委員長)

一括交付金は社会保障関係経費を除いたいわば投資的経費の部分でいうと3兆円が補助金ベースとしてあるわけで、社会保障関係経費や教育の関係経費を一括交付金で何割引にするというのは現実的でないだろうと思っておりまして、その辺を小沢候補がどのようにお考えになっておられるのかということは、私も関心を持っておりまして。これは選挙戦を通じてある意味深化したというべきだと思いますけれども、最近小沢候補は社会保障関係経費については削ることはしないというふうにおっしゃっておられます。これは地域主権戦略会議、政府で総理が議長になっておられる会議でも同じように、まずは投資的経費からやっていこうということで話が出てますんで、その意味では、ある意味、はずはあってきたのかなあと思っております。ただ、そうすると捻出される額が小さくなることは事実ですので、そこをどうしていくかということについては、このやりとりだけでは判然としませんけれども、場合によっては公債の追加発行だとか、そういったことでも賄うということなのかもしれません。そこはまだ現時点でははっきりしておりません。私自身は、2兆1兆円全てを一括交付金の対象にして、それでそこから財源をひねり出すということについては、本当にできるのかなと思っておりまして、今、このような形で議論が深まっている、深化していることについては、歓迎をしています。菅候補は、もともと政府の責任者でもありますので、政府として決めている方針に従ってやっていくということですので、ある意味財源について心配はないのかもしれませんが、内容について大きなものになるのかどうかについての心配はある訳でございます、これらについても、問題の所在を菅候補もはっきり認識していただいたと思いますので、是非とも大胆に改革を実行していただくことになれば、と思います。

(記者)

この回答書には、削減に関しては、特段盛り込まれてないんですけれども、その点どう評価されますか。小沢さんの一括交付金化によって3割削減可能と主張されてますけれども、その主張については回答書には盛り込まれてないんですが、その点についてどう評価されますか？

(古川委員長)

それは今回私どもの回答をされるにあたって、さらに周りの方とも含めて議論をされた結果だろうと思っております。その小沢さんの回答には全国知事会の主張も理解できるという言葉が入っていたと思いますけれども、それは全国知事会の方から発せられたいろんな質問や懸念というものに答える形でこのような表現をされておられるんだろうと思いますし、例えば昨日今日の時点では2兆3兆という額をこの一括交付金化によって生み出すという議論は、既に小沢候補はされていないのではないかなというふうに思っているところでございます。その意味では、私どもは現時点における小沢候補の考え方というものがこの回答にあらわれてきていると思っています。

(記者)

個人的でいいんですが、採点すると菅さん何点、小沢さん何点ですか。

(古川委員長)

これは個人の場合ではないでしょう(苦笑)。みなさんはどうでしたか。いずれにしても、菅総理の分は、現職の総理ですので、今までやってきたことの上にもどうしても回答を書かざるを得な

いということがあるわけで、その意味では新味というものがない部分があったかと思います。ただ、ご本人は市民運動出身らしく、市民主体の政治をつくっていくんだということが随所に織り込まれていて、そこは菅さんらしさが出ていたというふうに思っています。小沢さんはもっと斧でぶった切るような感じだった訳ですけども、いろんな議論を踏まえていくなかで、先ほどの一括交付金についても、かなりその辺についてはデリケートな形の表現に変えていっておられますし、ただ2人の違いがあるとすれば、財政について、これだけの円高・デフレの状況のなかで、場合によっては積極的な財政出動を求められるという点が、小沢さんと菅さんの違いだったのかなという印象を受けています。小沢さんが積極財政のように受け止めました。

あと、もう一つは、今回地域主権関連だけでなく、その前提として、今の日本経済や日本社会の低迷をどう脱却するのかという根本論のところの問いかけをさせていただきました。これは全国知事会というよりは、その前提としての政治の有り様に対する問いかけであったわけでありまして、そこはそれぞれのお考えがあらわされていますけども、いずれにしても、この戦いは、民主党の中での戦いというのではなくて、我が国がこれからどうあるべきなのかという大きな国のあり方を占う戦いでありますので、ぜひそのことは常に両方とも頭に入れておいていただきたいと思います。以上であります。